

陸上運動部 部便り

2006年4月号

六大戦

目次

1 監督の言葉	1
2 主将の言葉	1
3 試合経過	2
4 試合結果	6
5 2006年度部内5傑 2006.4.8現在	8
6 自己記録更新者一覧 2006.3.25～ 2006.4.8	9

1 監督の言葉

監督 寺田秋夫

今シーズン初戦の六大学対校は4月8日、駒沢競技場で開催されました。今年は主幹校のため運営側に多くの部員が回り、コンディションも低温快晴から、強風、土砂降り、最後は再び快晴と目まぐるしく入れ替わる、大変な試合となりました。6大戦は、地力でやれば3+1+2大学対校の様相ですが、上位校がベストでくることが少ないので、本学としては普段試合をさせてもらえない相手に胸を借り、関東IC1部復帰を狙うなら、定位置5番より上の順位を獲れるかが課題となる試合です。さて、競技の方ですが、期待の尾崎(2年)110mHの出場で試合開始。波に乗りたいところでしたが、いきなり怪我の影響で途中棄権と、先行き不安です。続く400m、100mとも予選通過できず、四継は登録メンバーで走れるのが2人なので棄権しようかという話にもなり、定位置どころか「最下位か」という雰囲気にもなりかけました。しかし、弱くても対校戦で選手を出さない

というのは大変失礼かつ恥ずかしいことですし、ゴールできれば得点は保証されるので、出るだけ出て1点を取りにいきました。トラックとは反対に、フィールドは上位大学のやる気のなさにも乗じて、4種目で2人入賞を含め、高跳以外の全種目で得点かつ7位以上獲得と、フィールド3位を獲得です。総合も中距離が踏ん張り、定位置5位は確保しました。可もなく不可もない結果に見えますが、個人別では3位以内がなく、7,8位を確保しなかったという状況で、早くエースが本調子にならないと、ここ数年と同じ試合シーズンを過ごしてしまう懸念もあります。勿論、悪い話ばかりではなく、復帰の北川(2年)が槍投げで50m超えを連発、合田(4年)の気象条件によらぬ安定した円盤、新井(4年)の2部ならやれそうな800mのレース運び、また、春季の記録会で石原(3年)が念願の1500m3分台突入、中位以下の選手が多数自己記録更新と、戦う意識を忘れなければ、インカレは別格の試合としても、対校戦シーズンはやれないことはないと思います。次は、そのエース級の力が問われるインカレですが、この2週間の反省を活かし、昨年の10倍くらいは得点できるようにしたいと思います。

2 主将の言葉

主将 竹内昌男

今年度の六大戦は4月8日に駒沢競技場で行われました。昨秋に新体制になり冬期の鍛練期を経て初の対校戦ということもあり、冬の鍛練の成果を試す絶好の機会でした。そういった意味で部員一同気を引き締めて一部常連校に胸を借り、冬期に蓄えられた力がどの程度通用するかという目的をもって試合に挑みました。結果としては例年

通りの総合5位。この結果を見ると去年と何も変わっていないように見えるかもしれませんが、しかしフィールドは3位につけ、特に投擲種目での貢献が見られました。こういう明るい話題もあり、5位という結果のなかにも一筋の光が差し込んでいるように思います。ですが、トラックでは怪我人が多く、今大会に関してはお世辞にも良い成績であったとは言えません。エースの不在や不調など原因はいろいろ考えられますが、何れにせよこの結果は真摯に受け止めなくてはなりません。今回の試合を通して、次なる関東インカレに向けての個々の課題も多く見つかりましたし、チーム全体として乗り越えていかなくてはならない問題もはっきりと表面化したと思います。また、怪我をしている選手に関してはそれを完全に治し、標準を切って関東インカレの舞台に立つことが求められます。そういった未だ完全体とは言い切れないチーム状況をどのように仕上げていくかが主将として私の急務だと思っております。そして私自身、主将としてチームを牽引すべく、大記録を打ち立て関東インカレの舞台で皆様方に晴れ晴れしい顔をお見せできるよう尽力して参るつもりです。また、部員一同、皆様方のご期待に応えられるようチーム一丸となって勝利に貪欲に挑戦して参ります。今後もお声援のほど、よろしくお願ひいたします。

3 試合経過

トラック

9:50 男子110mH 予選

1組3レーンに尾崎(2年)の出場。前日の練習で右足大腿を痛め、テーピングをしてスタートするが、途中で止まってしまう。DNFで予選敗退。このとき風は-1.8mであった。2組6レーンに梅沢(4年)の出場。終始安定したハードリングを見せるが、インターバルでピッチが上がらない。それでも16"48の4着で決勝進出を決めた。このとき風は-2.4mであった。

10:25 男子400m 予選

1組4レーンに今村(3年)の出場。スタートは無難な滑り出しを見せるが、バックストレートで徐々に差を広げられてしまう。それでも気持ちを切らさずに粘り、最終コーナーを抜けた時点で一人かわしてホームストレートに入る。必死に前方の選手にくらいつくもなかなか差は縮まらず、そのまま51"61の5着でゴール。自己ベストの走りであったが、決勝進出はならなかった。2組3レーンに深澤(2年)の出場。スタート直後から外側の選手に引き離され、苦しい展開に。バックストレートに入っても走りにキレは見られず、徐々に差は広がってしまう。コーナーを回って最後の直線に出たときには一人後方に取り残され、終始勝負に絡むことができずに53"07の5着でフィニッシュ。決勝進出はならなかった。

10:35 男子100m 予選

1組4レーンに斉藤(2年)の出場。スタートでいい反応を見せ、スタートから3歩目まで流れるように足を振りぬき、前へ出る。しかし、強い向かい風もあって十分に加速しきらないまま上半身が持ち上がってしまう。20m付近からトップとの差は開き、スピードに乗り切れず、有力選手の力強い走りとの地力の差が現れた。最後はトップから1秒以上離され12"11の6着でフィニッシュ。風は-3.4mであった。

11:45 男子800m 決勝

新井(4年)、小澤(3年)が出場する800mは12名の大人数によるオープンスタート。序盤に混戦が予想された。腰番号11の新井は、スタート後の混乱を難なく脱し、先頭をも伺える好位置につけ、残り1周の鐘を聞く。先頭に行く昨年の日本選手権優勝者の下平、同じく昨年の高校総体優勝者の横田を含む実力者3名の飛び出しにこそ対応できなかったものの、競り合いを経て4番手の位置を奪い、残り200m手前からの

伸びで後続を引き離し、1'56"56の4位でゴール。中距離チーフの責務を十二分に果たした。次回以降のレースでの関東インカレA標準、1'55"00突破の期待がかかる。腰番号1の小澤は、冬季練習終盤の怪我のため、万全の状態とは言い難かった。本来の動きの切れは今レースでは封印された形となり、後方の集団から前を伺わざるをえない苦しい展開となった。それでも大崩れすることなくまとめて10位、2'01"14でゴールした。怪我、故障なくシーズンを迎えたならばよりよい結果が望めた、という悔しさが今後プラスに働くなれば、彼ばかりでなくチーム全体にとって、今日の試合は意義深いものとなるだろう。

12:35 男子3000mSC 決勝

にわか雨の中、岡田(4年)、石原(3年)の出場。この種目で関カレB標準を突破している石原は、敢然と先行策を取り第2グループに喰らい付いていく。さすがに1000mを3'03で通過した後は脚色が鈍るが、なんとか粘ってラスト1周まで6番手をキープする。しかしスパートをかける余力はなく、順位を一つ落として9'38"87の7位でゴール。前週の1500mで3分台を出すなど、スピード面では成長を遂げているだけに、あとは飛越技術と基礎持久力の向上が関カレ決勝進出への鍵となる。一方の岡田も、石原の直後のグループにつけて快調に飛ばし、1000mは3'05で通過。その後は徐々に離され、ずっと一人で走る苦しい展開になったが、大きく崩れることなく得点圏を死守して9'55"01の8位でゴールした。2人ともベストタイムからすれば不満の残る結果ではあったが、悪コンディションの中もぎとった3点は、当時慶應・明治と3位争いを繰り広げていたチームにとって貴重な追加点となった。

13:00 男子4×100mR 決勝

2レーンに田中(3年)-斉藤(2年)-三好(4年)-瀧山(4年)の走順で出場。1走の田中はスタートから終始切れがよく、周りの選手に引けをとらない見事な走りを見せた。2走へのバトンもスムーズで、斉藤も調子が上がらないなりに粘りの走りを見せたが、徐々に先頭集団から離されていく。3走の三好はいつも通りのきれいなフォームを崩さず走りぬいたが、周りの選手の実力が高いこともあり、差を保つことができなかった。4走の瀧山は怪我を押しての出場であったが、そのせいもあってかバトンの受け取りから最後までいつもの切れのいい走りをする事ができず、43"89の6位でゴールした。

13:20 男子110mH 決勝

7レーンに梅沢(4年)の出場。一部校の選手にはスタートからおいていかれるが、低い姿勢のロスが少ないハードリングで、8レーンの立教の選手と競る。後半も力まず、リズムを保って走りきり、立教の選手に競り勝ち、15"75の6位でフィニッシュした。このとき風は+0.3mであった。

13:30 男子1500m 決勝

黒澤(4年)、齋藤(3年)の出場。雨も上がり、風も収まるなかなかのコンディションとなる。2人には関東インカレB標準4'00"00の突破が期待された。スタート後、2人は並ぶように集団中央につけ、400mを62秒の好ペースで通過。しかし、700m付近でずると後退した2人は、7人の先頭集団とはなれ、第二集団を引っ張る形となる。1000mを過ぎると第二集団も崩れ、2人だけのレースとなる苦しい展開となってしまった。ペースも上がりきらず、ラストの直線で持ち直すも、黒澤が4'06"54の8位、齋藤が4'07"09の9位でゴール。黒澤は自己ベストの走りではあったが、標準を狙う上で、先頭集団と離れてしまうことが悔やまれた。

15:30 男子 5000m 決勝

山崎 (D2)、石原 (3年) の出場。レースがスタートし、東大の2名は集団の最後尾に位置を取り、前の10選手と少し距離を置いて付いて行く。しかし、集団のペースに付いて行けず、その距離は徐々に広がっていく。先頭集団は1000mを2'49"で通過するが東大の2名はすでに10秒遅れを取り、2'59"で通過する。東大の2名のペースは徐々に落ちていくが、互いに引っ張り合うようにして走り、2000m付近で先頭集団から落ちてきた立大の選手を捕まえる。ここで山崎は立大の選手と並走するが、石原はこの2人から徐々に離されてしまう。3000m過ぎ、山崎はペースアップをして立大の選手を引き離し、100mほど前を走る早大の選手を追いかける。山崎は懸命に粘り、ラスト200mを31秒であがったがさすがに届かず15'40"61の10位でゴールした。石原は、この日既に3000mSCも走っていたためか、疲労が祟り最後まで立て直すことができず、15'59"89の12位。両者の実力からすれば不本意な結果であったが、六大戦のレベルではまだまだ力不足を感じさせるレースだった。

16:05 男子 4 × 400mR 決勝

7レーンに今村 (3年)-相川 (4年)-深澤 (2年)-伊勢田 (4年) の走順で出場。前年とは大きくメンバーが入れ替わった新鮮なチームだ。強豪相手にどこまで戦えるか、期待のかかるシーズン初戦である。1走今村はスタートからスピードが上がらずバックストレートにかかった途端に6レーンの選手に食われてしまう。コーナーを抜ける300m付近でも次々と他の内側の選手に食われ、大きく遅れて最下位でバトンをつないだ。2走相川は序盤抑え目で入り、バックストレートの終わり辺りから1つ前に行く早稲田の選手との差をぐんぐん詰めていった。そして残り30mで早稲田をか

わし5位で3走深澤につないだが、直後にアクシデントが起きた。バトンが深澤に渡ったかと思った瞬間、バトンを受け取るため後ろを見ながら走っていた深澤は、既にバトンパスを終えた明治大の第2走者に衝突し転倒してしまい、再び6位に転落してしまう。深澤は起き上がり後を必死で追ったが5位との差は詰まることなく、ここで勝負は決ってしまった。4走伊勢田に渡った時点で5位との差は80m近くあり、経験豊富な伊勢田にもどうしようもなかった。この走りにくい状況の中で伊勢田は最後まで手を抜くことなくいい走りを見せたが、結果は3'28"44で6位という残念なものであった。

フィールド

10:00 男子三段跳 決勝

横殴りの強風が吹き付ける中、佐野 (4年)、倉員 (3年) の出場。佐野は全体的に腰が後ろに居残り続け、動きにブレーキが目立つ。2跳目に13m79 (+2.5m) をマークするも、その後は記録を出せず6位に終わった。倉員は1跳目に13m91を残すと記録を伸ばしにかかるが、思うように伸ばせない。しかし、最終6跳目に集中し直し、14m03 (+0.3m) をなんとか跳び5位。風をよく読み、全試技唯一の公認記録で大学ベスト記録並びに関東インカレB標準記録を突破する記録を出す粘り強さをみせた。両者とも技術的に改善の余地が多く、五月までの課題と言える。

10:00 男子砲丸投 決勝

田上 (4年)、小林 (3年) の出場。曇り空の中、競技が開始される。小林は1投目からなかなか投げの感覚が掴めず、立ち投げに移行するなど苦戦しながらも3投目まで記録を伸ばし、ベスト8に残る。田上は1投目からしっかりと実力を発揮し、2投目からは自己ベストを更新すべく試行錯誤を繰り返しながら投

擲を続ける。3投目を終え、折り返しを過ぎた後も田上は安定した投擲を続け、5投目に9m85を投げ7位となる。小林は何とか調子を取り戻すものの、5投目の記録10m18までに伸び止まり6位となった。

12:30 男子走幅跳 決勝

竹内(4年)、武安(2年)の出場。跳躍3本目までは、雨が降り風が巻く中での試技となった。竹内は冬季の練習を通して、スピードを含めた助走技術が向上していたが、風と気温、跳躍練習に取り組んでいる途中段階ということもあり、うまく助走を調節することができずにファールを続けて記録を残すことができなかった。かの助走を殺さずに踏みあがることができれば大ジャンプを見せてくれることは必至なので、4月の後半から関カレにかけての試合に期待したい。武安は1本目で6m81を跳ぶが、記録を伸ばせず5位という結果に落ち着いた。去年に比べて助走スピード、跳躍技術等は向上してきているが、連続3週目の試合で走練習をしぱらくできなかったこともあり、スピードを上げて踏み切ることができなかった。第二回東大競技会以降では、ある程度調整をして記録を残してほしい。幅跳び陣は関カレB標準突破者が4人いるが、最低2人はA標準を突破することが望まれるので、標準突破期限まで全力を尽くしてほしい。

12:30 男子円盤投 決勝

合田(4年)、庄司(3年)の出場。試合開始の直前、公式練習の最中に、急に冷たい雨が降り始め気温が一気に低下してしまった。このまま、この悪いコンディションが続くかと思われたが、4投目以降は晴れ間が戻ってきた。合田は、1投目に35m52、2投目に36m10と今日の好調ぶりをアピールした。しかし、後半は欲を出して力んでしまい、5投目までファールが続く。6投目に何と

か立て直すものの、2投目の記録を上回することは無く、36m10の4位で競技を終えた。一方、庄司は調整不足が目立った。先週より調子は上がっているものの、28m台の投擲が続く。そのような中で、大きく振りぬいた3投目で、何とか30mライン近くまで投げ、29m24で7位に滑り込んだ。東大は、この競技で、4位、7位に入賞し、計7点を獲得した。

12:30 男子棒高跳 決勝

木村(3年)、大谷(2年)の出場。足合わせの段階で風向きが変わりマットを移動。また雨の影響により1時間遅れて試技が開始された。木村は一番低い高さの3m00から試技を開始。この高さは余裕のある跳躍で成功。次は自己記録の3m20。1跳目はアップライトが合わず失敗。しかし2跳目で修正して体が上がり成功。続く3m40は1、2跳目はポールが立たず失敗。3跳目は跳び急ぎ、腰が上がらず失敗。大谷はシーズン初戦ということもあり3m80から試技開始。3m80、4m00共に高さのある跳躍で順調にクリア。次の4m10はパスして自己記録である4m20にバーを上げた。しかしこの高さでは跳び急ぎ、高さが足りずに失敗。結局木村が3m20の6位、大谷が4m00の5位で試技を終えた。

14:00 男子走高跳 決勝

持永(4年)の出場。自己ベストタイとなる1m75からの試技開始。直前まで降っていた雨で地面が濡れていることもあり、助走が滑り気味で踏み切れず3試技とも失敗。記録なしに終わった。

14:00 男子やり投 決勝

北川(2年)、葉梨(2年)の出場。男子やり投げは雨が強く降っては晴れるという奇妙な天候の中行われた。今回のやり投げは各大学がエース級の選手を惜しむことなく使ってきたため、当初

から苦戦が予想された。不運にも葉梨は一投目のブロック時に足首を痛めるというアクシデントに見舞われた。その結果2投目は投擲できずにファール、3投目も記録を残すのが精一杯だった。一方、北川は1投目にあっさり目標の50mを超えるとその後も安定した投擲を見せ、2投目には51m68を記録した。ベストエイトにのこり、更なる記録の更新を狙うもヤリが若干上を向いてしまい記録を伸ばすことが出来ずに競技終了。結果は北川が51m68で7位、葉梨が34m84でエイトもれであった。

4 試合結果

第39回東京六大学対校陸上競技大会
於 駒沢陸上競技場 (H18.4.8)

男子 100m 決勝 (-0.8)			
1	相川 誠也	早大	10.75
2	長野 誠	慶大	10.75
3	田代 拓也	法大	10.85
4	樋口 慎一郎	立大	10.86
5	鈴木 翔大	慶大	10.87
6	菅沢 崇裕	法大	10.87
7	荒井 大輔	明大	11.21
8	楊井 佑貴緒	早大	11.22

男子 100m 予選			
1組 (-3.4)			
6	齊藤 拓海	東大	12.11
2組 (-2.9)			
5	瀧山 健	東大	DNS

男子 400m 決勝			
1	宮沢 洋平	法大	47.06
2	野田 浩之	早大	48.35
3	伊藤 隆浩	慶大	49.08
4	森 正朗	法大	49.40
5	小堀 進也	慶大	49.90
6	原 平大	早大	50.04

7	岩橋 宏紀	明大	50.45
8	藤田 泰仁	明大	50.58

男子 400m 予選			
1組			
5	今村 岳	東大	51.61
2組			
5	深澤 眞楠	東大	53.07

男子 800m 決勝			
1	横田 真人	慶大	1.51.01
2	下平 芳弘	早大	1.51.03
3	吉井 弘樹	早大	1.52.01
4	新井 邦生	東大	1.56.56
5	佐野 晃市	立大	1.58.58
6	横山 大輔	立大	1.59.22
7	津田 雄二郎	慶大	1.59.41
8	平野 拓洋	明大	1.59.76
10	小澤 聡	東大	2.01.14

男子 1500m 決勝			
1	下平 芳弘	早大	3.52.97
2	高橋 和也	早大	3.53.27
3	村上 貴彦	明大	3.54.22
4	清水 陽介	法大	3.55.19
5	岡本 直己	明大	3.55.42
6	高嶺 秀仁	法大	3.56.53
7	樋口 諒	慶大	3.58.51
8	黒澤 徹也	東大	4.06.54
9	齊藤 俊	東大	4.07.09

男子 5000m 決勝			
1	圓井 彰彦	法大	14.25.68
2	石川 卓哉	明大	14.34.86
3	亀田 健一	慶大	14.38.49
4	友廣 哲也	法大	14.41.66
5	安田 昌倫	明大	14.55.79
6	鈴木 康之	立大	15.00.12
7	石橋 洋三	早大	15.01.22
8	國弘 康志	慶大	15.03.16
10	山崎 智裕	東大	15.40.61
12	石原 宏尚	東大	15.59.89

男子 110mH 決勝 (+0.3)

1	國分 徹	早大	14.41
2	浦川 彬	法大	14.53
3	阿部 洋文	早大	14.65
4	渡邊 和敏	法大	14.68
5	井上 雄貴	立大	15.14
6	梅沢 啓	東大	15.75
7	岩国 英昭	立大	15.84
8	藤原 雅夫	慶大	17.18

男子 110mH 予選

1 組			
-	尾崎 翔	東大	DNF
2 組 (-2.4m)			
5	梅沢 啓	東大	16.48

男子 3000mSC 決勝

1	駒野 亮太	早大	9.09.54
2	齊藤 雄太郎	法大	9.10.29
3	青田 亨	明大	9.20.08
4	星野 剛	法大	9.25.12
5	阿久津 圭司	早大	9.27.36
6	金森 祐樹	慶大	9.32.51
7	石原 宏尚	東大	9.38.87
8	岡田 良平	東大	9.55.01

男子 4 × 100mR 決勝

1	早稲田大学	40.67
2	法政大学	41.08
3	慶應大学	41.17
4	立教大学	41.92
5	明治大学	42.13
6	東京大学	43.89
(田中-斉藤-三好-瀧山)		

男子 4 × 400mR 決勝

1	法政大学	3.10.09
2	慶應大学	3.17.47
3	早稲田大学	3.17.47
4	明治大学	3.19.17
5	立教大学	3.20.83
6	東京大学	3.28.44
(今村-相川-深澤-伊勢田)		

男子 走高跳 決勝

1	岡田 祥秀	明大	2m00
2	青柳 大地	法大	1m90
3	谷川 慶剛	慶大	1m85
4	青木 祐輔	法大	1m80
5	松本 隆史	慶大	1m75
-	持永 新	東大	NR

男子 棒高跳 決勝

1	渡辺 孝太郎	慶大	4m60
2	奥木 大輔	法大	4m40
3	丸山 怜史	法大	4m40
4	木下 剛	法大	4m30
5	大谷 真人	東大	4m00
6	木村 剛	東大	3m20

男子 走幅跳 決勝

1	十亀 慎也	法大	7m25
2	木村 孝三	早大	7m21
3	竹内 敦史	早大	6m96
4	寺嶋 隆司	法大	6m93
5	武安 光太郎	東大	6m81
6	緒方 陽一	明大	6m75
7	本間 崇之	慶大	6m54
8	岩国 英昭	立大	6m37
-	竹内 昌男	東大	NR

男子 三段跳 決勝

1	十亀 慎也	法大	15m85
2	竹内 敦史	早大	15m34
3	青木 祐輔	法大	15m06
4	木村 孝三	早大	14m31
5	倉員 智瑛	東大	14m03
6	佐野 太郎	東大	13m79
7	緒方 陽一	明大	13m44
8	鈴木 史彦	立大	13m35

男子 砲丸投 決勝

1	山田 壮太郎	法大	16m12
2	田中 雄介	法大	14m70
3	岡先 聖太	早大	13m42

4	井上 喜貴	早大	12m66
5	丹治 弘樹	明大	10m68
6	小林 宗隆	東大	10m18
7	田上 遼	東大	9m85
8	福田 亮介	慶大	9m61

男子 円盤投 決勝

1	井上 喜貴	早大	48m45
2	岡先 聖太	早大	48m32
3	田中 雄介	法大	40m78
4	合田 隆彦	東大	36m10
5	山田 壮太郎	法大	33m63
6	丹治 弘樹	明大	32m90
7	庄司 宇	東大	29m24
8	前田 崇之	明大	25m51

男子 やり投 決勝

1	竹迫 寿	早大	68m42
2	田中 雄介	法大	65m24
3	田中 司	早大	58m72
4	桑田 和佳	慶大	57m25
5	福田 亮介	慶大	56m30
6	前田 崇之	明大	53m14
7	北川 昂広	東大	51m68
8	大根 直之	法大	40m96
10	葉梨 輝	東大	34m97

男子トラック順位

1	早稲田大学	87
2	法政大学	81
3	慶應大学	54
4	明治大学	38
5	立教大学	26
6	東京大学	14

男子 フィールド順位

1	法政大学	85
2	早稲田大学	70
3	東京大学	32
4	慶應大学	30
5	明治大学	24
6	立教大学	2

男子 総合順位

1	法政大学	166
2	早稲田大学	157
3	慶應大学	84
4	明治大学	62
5	東京大学	46
6	立教大学	28

5 2006年度部内5傑 2006.4.8現在

男子 100m

1	田中 啓太 (3年)	11"29(-0.7)	4.2
2	倉員 智瑛 (3年)	11"89(± 0.0)	4.2
3	田苗 真也 (2年)	12"00(-0.9)	4.2
4	堀内 敦史 (2年)	12"08(-1.4)	4.8
5	斉藤 拓海 (2年)	12"11(-3.4)	4.8

男子 400m

1	今村 岳 (3年)	51"61	4.8
2	深澤 眞楠 (2年)	53"07	4.8
3	大村 泰平 (4年)	53"77	4.2
4	坂田 祐輔 (4年)	56"09	4.2

男子 800m

1	新井 邦生 (4年)	1'56"56	4.8
2	小澤 聡 (3年)	2'01"14	4.8
3	黒澤 徹也 (4年)	2'01"26	4.1
4	斉藤 俊 (3年)	2'01"55	4.1

男子 1500m

1	石原 宏尚 (3年)	3'59"84	4.2
2	新井 邦生 (4年)	4'04"33	4.2
3	黒澤 徹也 (4年)	4'06"54	4.8
4	斉藤 俊 (3年)	4'07"09	4.8
5	大村 泰平 (4年)	4'18"70	4.2

男子 5000m

1	片岡 哲朗 (4年)	15'53"90	4.1
2	石原 宏尚 (3年)	15'59"89	4.8
3	千島 悠司 (4年)	16'17"34	4.1
4	梶井 駿介 (2年)	16'32"13	4.1
5	田浦 英俊 (5年)	16'44"91	4.1

男子 110mH

1	梅沢 啓 (4年)	15"75(+0.3)	4.8
---	-----------	-------------	-----

男子 400mH

1	門脇 啓太 (2年)	62"50	4.1
---	------------	-------	-----

男子 3000mSC

- 1 石原 宏尚 (3年) 9'38"87 4.8
- 2 岡田 良平 (4年) 9'55"01 4.8
- 3 山崎 大 (4年) 10'24"9 4.8
- 4 加藤 宏平 (2年) 11'04"9 4.8

男子 走幅跳

- 1 尾崎 翔 (2年) 6m98 4.1
- 2 武安 光太郎 (2年) 6m81 4.8
- 3 竹内 昌男 (4年) 6m72 4.1
- 4 相川 啓佑 (4年) 6m37 4.8
- 5 持永 新 (4年) 5m86 4.1

男子 三段跳

- 1 倉員 智瑛 (3年) 14m03 4.8
- 2 武安 光太郎 (2年) 13m45 4.2
- 3 深澤 眞楠 (2年) 11m87 4.2

男子 走高跳

- 1 田中 啓 (6年) 1m85 4.2
- 2 持永 新 (4年) 1m75 4.1

男子 棒高跳

- 1 大谷 真人 (2年) 4m00 4.8
- 2 持永 新 (4年) 3m60 4.8
- 3 木村 剛 (3年) 3m20 4.8

男子 砲丸投

- 1 持永 新 (4年) 11m00 4.1
- 2 小林 宗隆 (3年) 10m18 4.8
- 3 田上 遼 (4年) 9m85 4.8

男子 円盤投

- 1 合田 隆彦 (4年) 37m07 4.1
- 2 庄司 宇 (3年) 29m24 4.8
- 3 持永 新 (4年) 27m19 4.2

男子 ハンマー投

- 1 庄司 宇 (3年) 37m22 4.1

男子 やり投

- 1 北川 昴広 (2年) 51m68 4.8
- 2 石井 仁也 (5年) 45m55 4.2
- 3 持永 新 (4年) 41m15 4.2
- 4 葉梨 輝 (2年) 37m82 4.2

男子 十種競技

- 1 持永 新 (4年) 5494点 4.1,2

女子 800m

- 1 向田 恵 (2年) 2'27"56 4.1

6 自己記録更新者一覧 2006.3.25
~ 2006.4.8

3/25 春季オープン (江戸川)

- 100m 田中 啓太 (3年) 11"13(+1.6)
- 800m 新井 邦生 (4年) 1'55"15

4/1,2 東大競技会 (駒場)

- 400m 大村 泰平 (4年) 53"77
- 1500m 大村 泰平 (4年) 4'18"70
- 1500m 石原 宏尚 (3年) 3'59"84
- 5000m 山本 祥 (3年) 16'57"16
- 5000m 梶井 駿介 (2年) 16'32"13
- 5000m 加藤 宏平 (2年) 17'09"31
- 5000m 金尾 太郎 (2年) 17'34"50
- 砲丸投 持永 新 (4年) 11m00
- やり投 持永 新 (4年) 41m15
- ハンマー投 庄司 宇 (3年) 37m22

4/8 六大戦 (駒沢)

- 400m 今村 岳 (3年) 51"61
- 1500m 黒澤 徹也 (4年) 4'06"54
- 1500m 千徳 恒徳 (2年) 4'25"57
- 5000m 金尾 太郎 (2年) 17'04"69

文責：佐野

編集後記

今回より自己記録更新者一覧のコーナーを新設いたしました。この欄にぎっしり名前を載せられるよう部員一同努力してまいりますので、今後ご声援のほどよろしくお願いいたします。

部便り係一同